

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（共通授業）

項目	共通	対象学年	2年	場所	カレッジホール
テーマ	子どもの生きる力をデザインで支える～社会的養護が必要な子どもへの支援～				
講師	和田 隆博 (NPO 法人子どもデザイン教室 代表理事)				
<p>講義内容</p> <p>親と暮らせない子どもを支援する「子どもデザイン教室」の物語は、2006年の5月から始まります。当法人の監事とのある話し合いから生まれました。2002年から高校などで学校教育に携わってきた私は「なぜ学校教育にデザインがないんだろう？」とデザイン教育の必要性を感じていました。「それなら自分が長年、広告デザイン業界で培ってきたスキルを子どもたちに教えよう」当初はそんな発想が始まりでした。</p> <p>ところがその話を監事にすると「子どもをより金持ちにする方法を教えてどうすんの？世の中には金持ちになりたいくても、なられへん子がおんねんよ」と諭されました。そして、親に頭から熱湯をかけられた女の子の話をされました。お昼に出たおうどんに箸をつけられず、冷え冷えになったのを覚えています。その頃、児童養護の児の字も知らなかった私が、あれから11年。今では通算で12人の里親をしています。</p> <p>将来が真っ白で、何にでも一生懸命な子どもの可能性が私は大好きです。一方で、第4次産業革命が進展し、コンピュータ社会の台頭と共に、誰もがデザインできる時代になってきました。現役デザイナーの終わらせ方と自分自身の新しい使命を模索し、その頃の私は経済的にもどん底でした。そんな私が夢見た世界が今、徐々に実現しようとしています。やはり「自分の人生をデザインすること」は重要です。</p> <p>今年で子どもデザイン教室は創設11年目を迎えます。これからも親と暮らせない子どもの未来を照らすランプになりたいと考えています。子どもデザイン教室では現在、子どもの成長に合わせて3歳から22歳まで、お絵かき工作から自立支援まで繋がるレッスンを展開しています。名付けて「自分デザイナーを育てるレッスン」。自分の人生が設計できる人を育てています。また、子どもデザイン基金として、子どもの自立資金と運営資金を創出する取り組みをしています。さらに、子どもサポートホームとして、親と暮らせない子どもを里親として育てています。今までこの3つの柱はバラバラでしたが、これからはこの3本の柱を一つに繋がる取り組みをしています。このような子どもデザイン教室のこれまでとこれから、親と暮らせない子どもたちの現状、レッスンで子どもたちがどう変わるのかをお話したいと思います。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>私はよく子どもたちに話しています。「諦めない限り夢は叶うと」。私もそうして夢を叶えてきました。そんな私のお話をぜひ聞いてください。お目にかかるのを楽しみにしています。</p>					